

深刻化する世界の飢餓

世界の飢餓が深刻化しています。新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大した2020年、7億2000万〜8億1000万人の人々が飢えに苦しんでいるとする報告書（「世界の食料安全保障と栄養の現状」）を、国連児童基金（ユニセフ）、国連食糧農業機関（FAO）などの国連機関が発表しました。世界各地で頻発する紛争や気候危機、そしてコロナ禍の複合危機が食料危機を増幅しています。（金子豊弘）

国連機関の報告書は、新型コロナウイルスが、世界型の食料システムの脆弱（ぜいじゃく）性をあぶりだし、としました。

とどめを刺すパンデミック

「このパンデミック（世界的流行）は、紛争の衝撃、経済的打撃、悪化する気候危機によってすでに打撃を受けた何百万人もの人々にとどめを刺すものとなっ

た。このように、国際的NGOのオックスファムのエミリー・ファー氏は指摘し、「（国連機関の）新しい数字は、世界の食料と経済システムがいかに壊れているかを感じ起させる」と言います。

国連機関の報告書は、次のような対策を提起します。

▽紛争地域における人道支援、開発、平和構築の政策の統合。例えば、家族が

紛争・気候危機・コロナ禍の複合危機

1分に11人が餓死

食料と引き換えにわずかな資産を売らないようにするための社会的保護策など。

▽食料システム全体の気候変動に対するレジリエンス（回復力）を高める。

例えば、零細農家が気候変動リスク保険や予測に基づいた融資を広く利用できるようにする。

▽経済的に最も脆弱な人々のレジリエンスを強化する。例えば、パンデミックや食料価格の変動の影響を減らす。

響を軽減するための現物もしくはは現金給付支援プログラムの提供。

▽栄養価の高い食品のコストを下げるために、サプライチェーン（供給網）に介入する。例えば、栄養価を高めた作物の栽培の奨励や、果物や野菜の生産者の市場参入を容易にする。

▽貧困と構造的な不平等を取り組む。例えば、技術移転や認証プログラムを通じて、貧困地域の食料供給体制を強化。

▽食品環境の強化と消費者の行動変容。例えば、食品供給における塩分と糖の削減、食品マーケティング（商業化）の悪影響から子どもたちを守ることなどです。

オックスファムは、世界の人びとが飢餓と栄養失調に苦しんでいるのは、決して食料が「不足」しているからではなく、平等が「不足」しているからだと述べています。



コロナ禍の中で、支援者から食料を受け取るスラムの住人。6月24日、ブラジル・リオデジャネイロ（ロイター）

格差、貧困の構造問題にメスを

オックスファムのファー氏は言います。「ビリオネア（資産10億以上の大富豪）が宇宙競争を繰り広げている間に、数百万人が空腹のまま覆っているのだ」

子どもの22%
発育障害直面

女性、子ども、難民、非公式労働者などが食料危機の矢面に立たされている。国連機関の報告書によると、世界の子どもたちの22%が発育障害に直面しています。

1分間に11人が餓死している悲劇的実態をオックスファムは告発し、「各国政府は、巨大な食品会社の利益より、毎日、数億人の人びとに食料を提供している人々の利益を優先させなければならぬ」と提起します。

食料危機の背景にある構造的な問題にメスを入れることが求められています。